

今月号の主な内容は、

○工事の進捗状況等
緊急時淡水貯槽設置工事

○津波対策工事ほか追加工事における、
静岡県と御前崎市による点検および確認

です！



浜岡原子力発電所従事者数 (10月1日現在)

4,383名(安全性向上対策工事従事者以外を含む)

【御前崎市・牧之原市・掛川市・菊川市在住：2,388名(53%)】

県外
1,354名(31%)

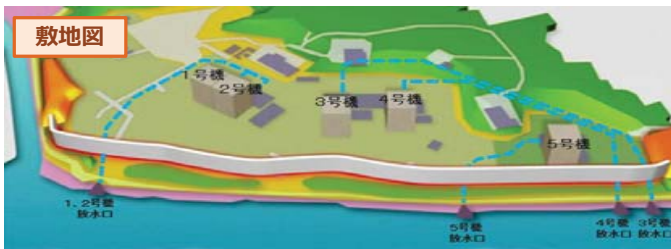
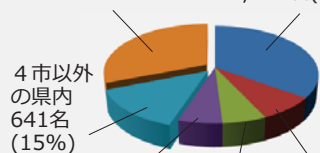
御前崎市
1,539名(35%)

4市以外
の県内
641名
(15%)

菊川市
231名
(5%)

牧之原市
268名
(6%)

掛川市
350名
(8%)



敷地図

【工事の進捗状況等】

○緊急時淡水貯槽設置工事

原子炉および使用済燃料貯蔵プールへ注水するための水源として、既設の復水貯蔵槽に加え、緊急時の淡水貯槽を設置しました。また、淡水貯槽から注水をおこなう可搬型注水設備の配備が完了しました。さらに、新設したポンプから注水をおこなうための配管布設工事が概ね完了しました。

今後は、系統試験等を実施していきます。



淡水貯槽工事前
(24年10月)



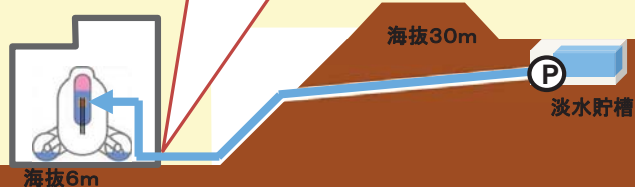
(25年10月)



淡水貯槽設置完了後
(28年3月～)



配管布設工事の様子



(淡水貯槽からの送水イメージ図)



ポンプ室内部

【浜岡原子力発電所安全等対策協議会（4市対協）のご視察について】

9月29日、周辺4市で構成される浜岡原子力発電所安全等対策協議会がご来所し会長である柳澤御前崎市長をはじめ、約30名の方に防波壁や原子炉建屋の強化扉などの安全性向上対策工事の状況をご視察いただきました。



ご視察の様子

【静岡県および御前崎市による津波対策工事ほか追加工事の点検および確認について】

60回目となる10月14日、ガスタービン発電機の高台設置および被水防護カバーの設置について点検を受けました。

静岡県から、「緊張感のある中で中央制御室の操作がおこなわれていることや、設備の性能が計画どおり発揮されていることを確認した。ガスタービン発電機は緊急時に使うものであり、複数号機にまたがる連携など、訓練を通じて確実な対応ができるようお願いしたい。」等との講評をいただきました。

御前崎市から、「残りの工事についても、努力を惜しまず、市民の安心感が得られるよう着実に工事を進めてほしい。また、一人でも多くの方に対策工事の様子を確認いただけるよう対応をお願いしたい。」等との講評をいただきました。



ガスタービン発電機の高台設置 点検の様子

61回目となる10月25日、4号機取水槽地盤改良工事（取水槽補強含む）および取水槽他の溢水対策について点検を受けました。

静岡県から、「設備の機能が保たれるように点検等による保守管理をしっかりと実施してほしい。」等との講評をいただきました。

御前崎市から、「現在進めている工事について、手戻りがないように確実に実施してほしい。」等との講評をいただきました。



取水槽他の溢水対策 点検の様子

【審査会合】

原子力規制委員会による新規制基準適合性確認審査を受けています。
(3,4号機を申請中ですが、現在4号機の審査が進められています。)

(平成28年10月31日現在)

<4号機の進捗状況>

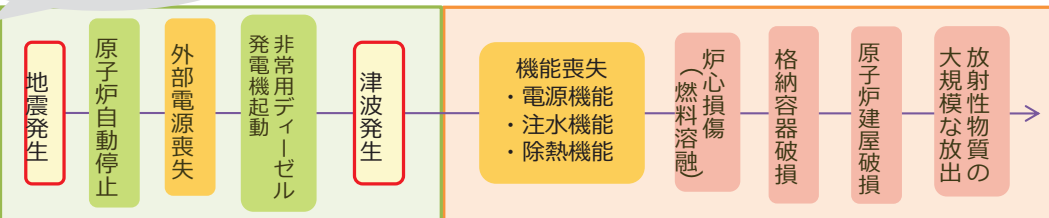
項目	地震・津波等に関する事項	プラントに関する事項
回数	計14回	合同で2回実施 計56回

審査は、地震・津波等に関する事項とプラントに関する事項に分けておこなわれています。今後も、原子力規制委員会による審査に真摯に対応し、新規制基準に適合していることを早期にご確認いただけるよう努力していきます。

発電所の安全性を更に高めるための取り組み【概要】

福島第一原子力発電所の事故の教訓から、発電所では地震や津波等の様々な事態に対処するために、設備の追加配備や現場対応力の強化をおこなっています。主な取り組みをみなさまへ紹介いたします。

①福島第一の話 福島第一原子力発電所の事故の場合は、以下のように事象が進展しました。



発電所では、福島事故の前から電源や注水、除熱の機能をもつ設備を多重性・多様性をもって配備していますが、事故以降、様々な追加対策を講じ、更に発電所の安全性を向上させています。

②設備の話

従来の設計基準の事故に加えてより厳しい想定の大事故に対処するため、様々な事態を想定し、対策を実施しています。また、対策に柔軟性を持たせるために、備え付けの設備だけではなく、可搬型の設備も配備しています。4号機に係る主な工事は、9月末にて工事を終了し、主要な機能（電源、注水、除熱等）は強化されてます。 ____は工事・配備終了を示す

【主な設計基準事故対策設備】原子炉施設の安全を確保するための機器が、一斉に機能喪失しないようにします。

- 地震に耐える。**
 - Ⓐ配管サポート
- 津波を浸入させない。**
 - Ⓑ防波壁
 - Ⓒ大物搬入口
- 自然災害に備える。**
 - Ⓓ飛来物防護対策（海水取水ポンプ竜巻対策）
- 防火対策**
 - Ⓔ防火帯

【主な重大事故等対策設備】重大事故等の発生に備え、冷やす機能を確認し、重大事故に至らないようにします。また、重大事故等の発生を想定し、事故の進展を防ぐ機能を強化しています。

- 電源機能強化**
 - Ⓕ恒設
 - Ⓖガスタービン発電機
- 注水機能強化**
 - Ⓖ交流電源車
 - Ⓖ可搬型注水ポンプ車
- 除熱機能強化**
 - Ⓖ緊急時淡水貯槽
 - Ⓖ緊急時海水取水設備
 - Ⓖ可搬型取水ポンプ車

重大事故時に柔軟に対応するため、可搬型車両やその保管場所を確認し分散配置します。対応現場へ出動できるよう、複数のアクセスルートの確保に取り組んでいます。



③現場対応力の話

配備した設備が期待通りの機能を発揮するためには、扱う「人」の「現場対応力」が必要だと考え、強化しています。

【初動対応の強化】

緊急時即応班の立ち上げ準備をおこなっています。

24時間 365日体制
緊急時に特化した幅広い対応力



役割
・戦略検討
・アクセスルート確保
・可搬設備の操作等
現場対応 (現在13名)

【手順の整備・資格の取得】

設備導入に伴い、必要な手順の追加や免許等の資格の取得をおこなっています。



<取得免許例>
・大型自動車免許
・けん引免許
・移動式クレーン免許
・危険物取扱者（乙種4類）など

【資機材の充実】

発電所での活動に支障をきたさないよう様々な資機材を配備しています。

配備数を見直し、必要に応じて追加しました。



シンチレーションサーバイメータ

タイベックスーツ

【訓練の充実】目的に応じて様々な事故・事象への対応を網羅的に確認・強化し、緊急時に対応する組織の能力を総合的に向上させます。

総合訓練



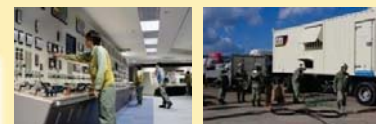
主に現場や発電所外との連携、対応手順の確認を目的に実施しています。

図上演習



判断能力の向上を目的とした訓練を平成27年度から実施しています。

現場訓練



シミュレータ訓練

電源車操作訓練

新たに設置した設備の手順を確認するとともに、可搬設備の操作等に必要力量の向上に努めています。

浜岡原子力発電所では、安全性向上対策工事を進めています。また、配備された設備が期待通りの機能を発揮することができるよう現場対応力を強化しています。今後とも、更なる安全性の向上に努め、地域をはじめ社会のみならず、より信頼される発電所を目指して取り組んでまいります。